令和４年度　東京都内湾水生生物調査　６月稚魚調査　速報

●実施状況

令和４年６月15日に稚魚調査を実施した。天気は小雨で、気温は18.4～19.0℃、調査地点はお台場では西より、城南大橋と葛西人口渚では北寄りの風で、風速 2m 程度であった。調査当日は大潮で、干潮は11時29分、満潮は18時38分であった（気象庁のデータ）。

全調査地点においてマハゼとボラが出現した。また、お台場海浜公園と城南大橋ではヨウジウオが、葛西人工渚ではトラフグが確認された。

【Topic】東京湾旧防波堤にてタヌキが出現

城南大橋から葛西人工渚への移動中、江東区東雲運河の中州となっている東京湾旧防波堤において、水際を歩くタヌキが確認された。石の裏の小動物を探すように歩く様子が見られた。

	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	9:14-10:27	11:00-12:14	13:16-14:45
水温(℃)	20.5	20.9	19.5
塩分(-)	21.0	14.1	3.8
透視度(cm)	32	25	15
DO(mg/L)	6.9	8.6	6.3
DO飽和度(%)	87.3	104.7	70.3
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	8.0	7.7	7.5
水の臭気	無臭	下水臭	弱下水臭
備考	下げ潮時に調査を行った。沖合の水質観測点では、赤潮が発生していた。	下げ潮から干潮にかけて調査を行った。干潟は大きく干出していた。	上げ潮時に調査を行った。

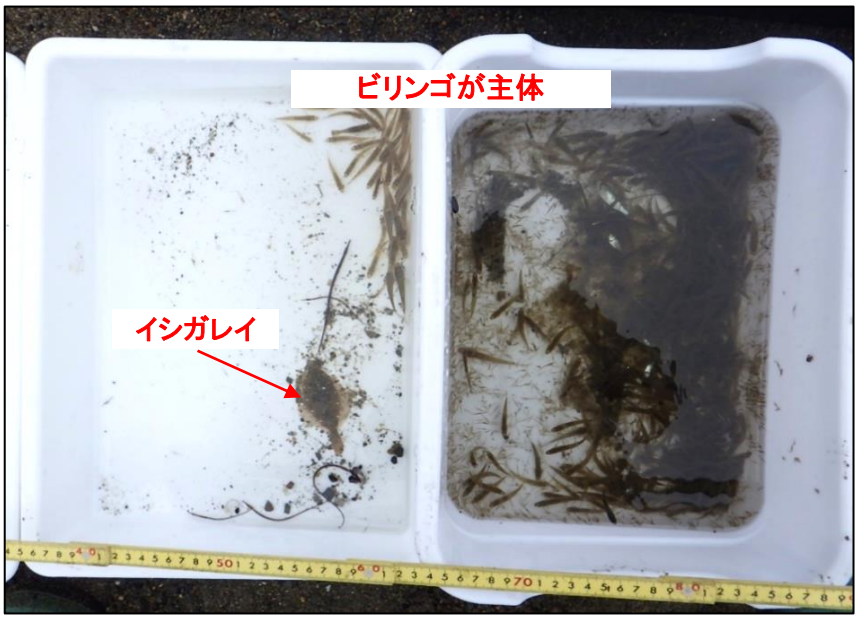
●主な出現種等　（速報のため、種名等は未確定）

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種（多い順注）	ビリンゴ(m)	マハゼ(m)	マハゼ(m)
	マハゼ(+)	ヒメハゼ(c)	ボラ(c)
	ボラ(+)	ボラ(+)	エドハゼ(c)
	ヨウジウオ(+)	ヨウジウオ(r)	トラフグ(+)
	クロダイ(+)		アカエイ(r)
魚類以外	ニホンイサザアミ(G)	ニホンイサザアミ(G)	エビジャコ属(c)
	エビジャコ属(r)	エビジャコ属(c)	ヨコエビ類(r)
	ユビナガスジエビ(r)		
備考	他にチチブ属、ハゼ科仔魚が採集された。	他にツメタガイの卵塊が採集された。	

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000個体以上、m:100～1000個体未満、c:20～100個体未満、+:5～20個体未満、r:5個体未満

お台場海浜公園　採取試料



水際数 m で急に深くなる人口の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

淡水の影響を受ける干潟に多い。仔稚魚は早春に干潟に出現する。産卵は冬から早春にかけて、アナジャコなどの甲殻類の巣穴で行う。

夏秋の幼魚期は内湾や沿岸域に定着する。秋冬は内湾周辺の深場で越冬をする。産卵期になると浅い砂地のある入江や湾内外の磯場にて集団で産卵する。

第 2 胸脚(鋏脚)が長いことからこの名があり、内湾部の転石の多い場所や護岸で普通に見られる。生体は褐色に見える個体が多い。

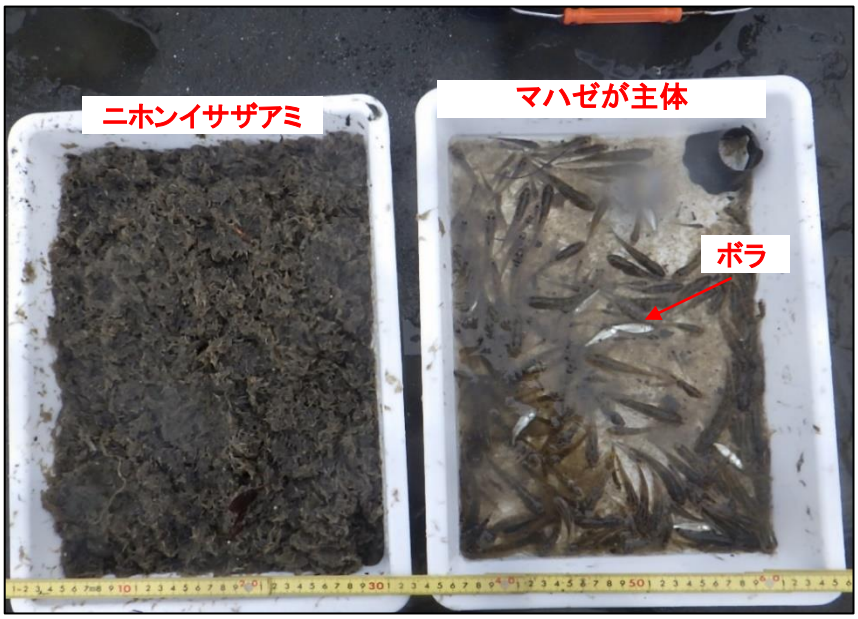
稚魚は干潟域などのごく浅い場所に出現する。夏は湾央のやや深場の砂泥地に分布しているが、秋から春には湾奥に分布するようになる。体の模様は砂の色にそっくりである。成魚では、目のある体側に石状の骨質板が並んでいるのが特徴。

チチブ属の浮遊仔魚は東京湾の干潟域、人工海浜、砂浜海岸にて6～9 月に大量に出現する。雑食性で、湾奥から外湾にかけての河口域や潟湖などに生息し、泥底から砂泥底にある転石や牡蠣殻の間や下などにみられる。

潮干狩りで盛んに獲られる代表的な二枚貝。殻長は 1.5cm になる卵型。殻の模様は生息場所などによって変化する。着底した稚貝は足糸を分泌して砂礫などにくっつき、しばらく付着生活を送るが、成長すると足糸が切れて砂泥に潜る。今回、調査地点付近の転石に足糸で付着している数個体が観察された。

【調査対象外】

城南大橋　採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。調査時は干潟が大きく干出していた。

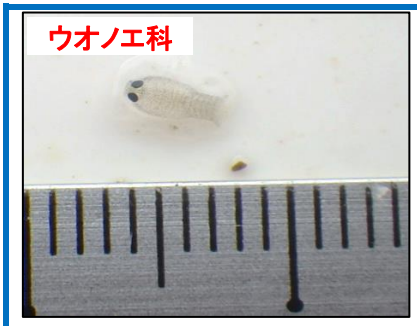
●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

東京湾内湾に多く生息する海水魚で、稚魚は春から夏にかけて干潟で成長する。ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。

全長 8cm 程になる。内湾や干潟域の砂底や砂泥底に生息する。砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。産卵期は 5 月から 9 月で、二枚貝の貝殻の中に産卵する。

湾央から外湾にかけてのアマモ場で多くみられる。全長 30cm 程度になるが、調査で捕獲された個体は全長 11cm 程度であった。

汽水域に生息するアミの仲間（エビの仲間ではない）。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌として重要である。内湾や河口などの汽水域の干潟でみられる。初夏にかけて大発生することがあり、今回は 5 kg程度が入網した。

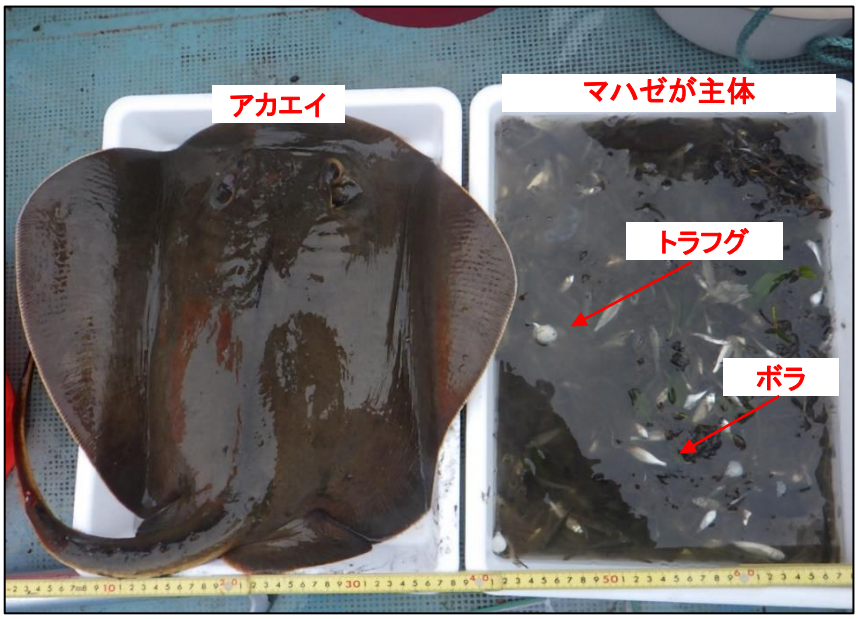


魚の口中や鰓、体表に寄生する甲殻類。口中に寄生する種は、エラから宿主の口腔内に侵入し、舌にとりついて血管から吸血する。採取された個体の全長は 4mm であった。

本地点では今回多数のツメタガイの卵塊が確認された。ツメタガイはアサリなどの二枚貝を捕食する。繁殖期は春で、茶碗をかぶせたような形に卵塊を作る。その形から通称「砂茶碗」と呼ばれる。

【調査対象外】

葛西人工渚　採取試料

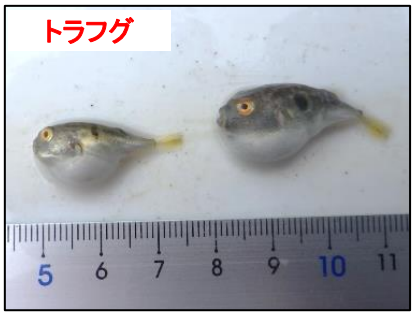


東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

東京湾で最も普通にみられるエイで汽水域にも現れる。砂泥質の海底を鰭で煽るように堀り、貝類や甲殻類などを捕食する。尾部の毒針は大変危険。今回出現した個体は全長 108 cm、体盤長 45 cm、体重 5.4 kgのメスであった。

東京湾を代表するハゼの仲間。河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、冬になると産卵のため深場へ移動する。



高級食材としても知られる代表的なフグで、成長すると 70 cm程になる。胸鰭の後ろ斜め上の黒斑が白く縁どられていることで、クサフグ等と見分けられる。稚魚期は河口域でみられることも多い。

※解説は城南大橋を参照。

内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体のわりに獰猛で、魚類の稚魚等を捕食することが知られている。

成長するとアナジャコの巣穴を隠れ家として利用することが 知られている。そのため、成長した個体は小型地曳網で採集されにくくなる。